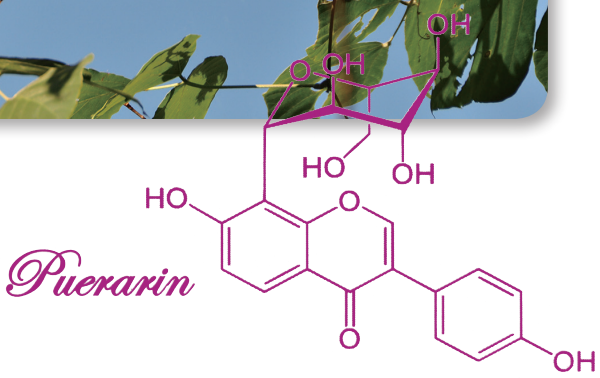
一般社団法人 昭薬同窓会

昭薬同窓会会報

No. 116
年2回発行
2019年3月31日



「クズ *Pueraria monntana var. lobate*」
撮影者　鹿児島支部　坂元成行様（D-25A 昭和52年卒）
撮影地　鹿児島県自然薬草の森

第8回一般社団法人昭薬同窓会社員総会のお知らせ
理事及び監事の選出並びに立候補の届出等の受付に関する告示

【主な内容】

巻頭言　薬剤師のあり方と将来像　同窓会会長
特別寄稿　血管を標的としたがん免疫療法の基礎研究　宇都口 直樹 氏（昭和薬科大学教授）
平成塾薬剤師業務支援講座報告　てんかんの薬物療法　子どもと薬について
山本恵子学長訪問記
昭薬同窓会懇親会 in 金沢 報告　第79回九州山口薬学大会 報告
学究の広場　漢方薬は人類の叡智が産んだナノ免疫製剤?　小泉 桂一 氏（D-43S　平成7年卒）
支部会便り　横浜南支部　多摩南支部
クラス会便り　D-12A　D-15　D-26AB　D-29AB　D-36AB　D-37B
OB・OG会便り　昭薬山岳部　昭和薬科大学合唱団
昭薬同窓生リレー寄稿　第3回 笠倉 哲也 氏（D-46Y　平成10年卒）
第6回 江口記念がん優秀活動症受賞報告
昭薬ミニミニクイズ　部局紹介 学術部　お知らせ

薬剤師のあり方と将来像

昭薬同窓会会長
逸見（へんみ）　仁道（ひろみち）（D-22B/M5　昭和49年卒）

会報116号をお届けできることを同窓生ならびに関係者のご支援の賜物と感謝申し上げます。本号では恒例の「平成塾薬剤師支援講座」(「てんかんの薬物治療」と「子どもの薬」）の紹介記事ならびに同窓生の活躍を紹介する「学究の広場」と「昭薬同窓生リレー寄稿」に加えて昭和薬科大学薬剤学研究室宇都口直樹教授に最近の研究成果を寄せて頂きました。詳細は本文の記事に委ねるとして、京都大学の本庶佑先生のノーベル生理医学賞受賞を機に、腫瘍の免疫療法に注目が集まったのは良いことで、今後、この分野への研究費の配分が増えることを期待しています。「学究の広場」の小泉圭一先生はユニークな発想で研究を進められ、今後の展開が楽しみです。また、「昭薬同窓生リレー寄稿」の笠倉哲也先生は企業の研究開発という観点からの経験談を頂きました。いずれも同窓生にとっては参考になるとともに門外漢にとっては興味深い内容となっているのではないかと感じました。

さて、本題の「薬剤師のあり方と将来像」ですが、2014年11月に薬事法が改正され、医薬品医療機器等法（薬機法）として施行されました。この新法は５年後に見直すということで、2019年は見直しの年となりました。昨年４月以降、見直しの論議が厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会（制度部会）で行われ、「取りまとめ案」が昨年12月に公表されました。詳細は日経メディカル等の専門誌や厚労省のHPに詳しく載っていますので割愛しますが、興味のある方はそれらをご覧ください。少し復習をしますと、2014年の改訂では長年慣れ親しんだ薬事法という名称が変更され、医薬品・医療機器などの安全対策の強化、医療機器に関する規制の構築、再生医療等製品に関する規制の構築について制定され、医薬品のみならず医療機器に関する規制が強化され、法律の名称が変わったのもうなずける内容となっていました。また､その５ヶ月前には一般用医薬品(OTC)の販売ルールの整備ということで要指導医薬品が新設され、第１類医薬品及び第２類医薬品のインターネット販売が解禁されました。「取りまとめ案」は今後国会審議を経て、遅くとも2020年度には施行されると思われます。最終的に内容がどのように修正されるが、現時点では不確かですが、国会審議過程での修正は小さいと考えられています。大筋では投薬後の患者のフォローが義務付けられ、かつ、医師にフィードバックする義務が法律で規定されるという点は変わらないと思われます。薬機法改正後は薬剤師の薬学的知識をこれまで以上に活用し薬剤の有害事象の回避や多剤併用や残薬の問題も軽減され、患者にとって良い治療環境が実現することが期待されています。取りまとめ案の作成作業過程では、「現在の医薬分業での薬剤師・薬局における本来の機能やメリットの欠落」や「患者や他の職種から意義を理解されていないという危機感がない」など現状の薬剤師業務に厳しい意見が浴びせられたようです。改正後も同様の批判が起こらぬようしっかりと業務に励む必要があります。思い起こせば薬剤師が薬の単なる供給者から提供者に変化した始まりは病院での「服薬指導」でありました。病室で初めて患者と向かい合った若い薬剤師の「緊張しましたがどうにかこなせました」という言葉が耳に残っています。現在では居宅を訪問して必要な情報を収集し、発信するところまで深化しています。厚労省の主導する制度改革には当面目を離せません。どのように患者や地域社会の医療に役立つか、制度の確立とともにどう対処していくか、しっかりと見守る必要があります。

最後に皆さまにお願いがあります。昭和薬科大学は来年（2020年）で創立90周年、また昭薬同窓会は創立60周年を迎えます。創立記念事業として相応しいイベントを募集したいと考えています。アイディア等何でも結構ですので事務局までお寄せください。

【表紙解説】

クズ（*Pueraria monntana var. lobate*）

「マメ科の多年草。生薬名：葛根、葛花。使用部位：根・花。漢方薬の原料・食用として使用されています。全国に分布しているが、鹿児島県は生産量日本一です。」（鹿児島支部　坂元成行様　D-25A 昭和52年卒）

万葉の昔から秋の七草の一つにも数えられるクズは、秋に山中で美しく目を引く赤紫色の花を咲かせます。周囲の植物を駆逐するほどの旺盛な繁殖力をもち、古くから食用、薬用、工芸材料として活用されてきました。薬効成分としてプエラリン、ダイゼイン、ダイズインなどのイソフラボン誘導体を含み、発汗、解熱、鎮痙作用が知られています。花言葉は「活力」「芯の強さ」「根気」「努力」「治癒」など。写真は鹿児島支部の坂元成行様に提供して頂きました。(神戸)

【特別寄稿】

今回、昨年９月東京城北支部会研修会でご講演頂きました宇都口直樹先生に、講演内容についてのご寄稿をお願いいたしました。先生は大阪大学薬学部ならびに同大学院薬学研究科のご出身で、博士課程修了後、本学薬剤学研究室助手・講師を務められた後、帝京大学薬学部に教授として赴任されました。2016年に薬剤学教授として本学に戻られ、昨年より副学長もなさっています。

血管を標的としたがん免疫療法の基礎研究

昭和薬科大学
薬剤学研究室教授
宇都口　直樹

１．はじめに

我々の体の中では常にがん細胞が発生していますが、発生したがん細胞を抑え込もうとする免疫が自然に備わっています。それゆえ、すでに発生してしまったがんを免疫細胞の力で抑えるためには、免疫系の働きを人為的に強めなければなりません。これが免疫療法の基本戦略となります。本稿では、当研究室で研究を行っている樹状細胞を用いたがん免疫療法について紹介します。

２．新生血管を標的としたがん免疫療法

固形腫瘍の増大には、がん細胞の増殖に必要な栄養や酸素の供給路となる血管の新生が不可欠です（図1）。血管は血管内皮細胞という細胞で構成されています。そこで、がん細胞そのものではなく、血管内皮細胞の増殖を抑える薬物「血管新生阻害剤」を抗腫瘍薬として用いる研究がなされ、すでに抗血管内皮細胞増殖因子抗体が医薬品として上市されています。

そこで当研究室では、新生血管ではなく、腫瘍細胞が誘導する新生血管を標的としたほうが、より腫瘍への選択性が増し、有効な療法となると考えました。具体的には、腫瘍組織血管内皮細胞を抗原として樹状細胞（抗原提示細胞）に取り込ませ、腫瘍組織血管内皮細胞への細胞傷害性Ｔ細胞を誘導・活性化し、腫瘍組織血管を破綻させることによる腫瘍の退縮を期待するものです（図2）。

腫瘍細胞そのものではなく、腫瘍組織部位の血管内皮細胞を標的とする利点を４つ挙げることができます。

①効率の良さ：がんを構成する細胞は主に血管内皮細胞とがん細胞ですが、その細胞数比は１：100～1000です。これは１つの血管内皮細胞の死が100～1000個のがん細胞死を誘導することを意味しており、極めて効率が高いと考えられます。

②幅広いがん種に適応可能：血管内皮細胞は、がん種を問わず共通の抗原を発現している可能性があり、血管内皮細胞を標的とすれば幅広い腫瘍への適応の可能性があります。

③副作用の低さ：成人において血管新生が盛んな部位は、がん組織以外では創傷治癒部位などに限定されるため、副作用が低いことが予測されます。

④免疫細胞の接触が容易：がん細胞を標的とした場合、血中の免疫細胞は血管内皮細胞層を浸潤しなければ標的細胞に到達することができませんが、本療法は直接、標的細胞に到達することができます。

そこで、がん組織の血管を標的とした免疫療法の有効性を検討しました。その結果、顕著な抗腫瘍効果が観察されました（参考文献）。その際、腫瘍組織部位の血管が破綻し、免疫細胞が誘導されていることも明らかとしました。さらに、本療法は黒色腫のみならず、結腸がんなど多くのがん種で有効であることが判明しました。

３．おわりに

生命の進化によって得た、高度な生体制御システムである、「免疫機構」を利用し、これを種々の治療に生かす戦略は理にかなったものであると考えています。そこで、生命が有する最も聡明な「免疫細胞」を利用し、がん治療法の開発を進めてきた次第です。今後も、精巧緻密にできた生命のシステム「免疫」を上手く利用した治療法の開発を行っていきたいと思っています。

参考文献：Biol Pharm Bull. 40, 1661-1668, 2017

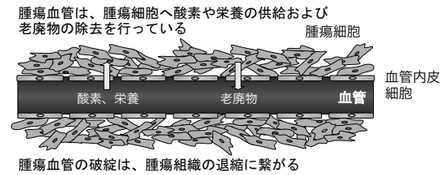


図１　腫瘍における血管の役割

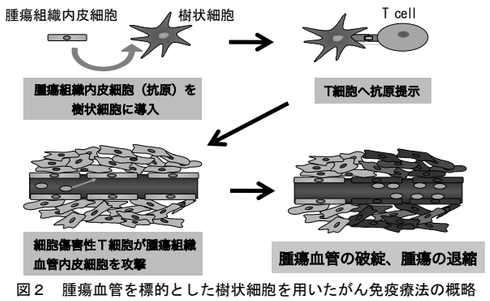


図２　腫瘍血管を標的とした樹状細胞を用いたがん免疫療法の概略

平成塾薬剤師業務支援講座報告

てんかんの薬物療法

日　時：平成 30 年 10 月 21 日（日）
場　所：町田市文化交流センター 5F サルビア
講　師：今泉　眞知子　先生　（有）丈夫屋　顧問

講師略歴　今泉　眞知子（いまいずみ　まちこ）
（D-20B　昭和 47 年卒）
昭和 47 年 3 月昭和薬科大学卒業、昭和 57 年社会福祉法人 滝野川病院薬剤科長、平成 18 年東京大学大学院動物医療センター薬剤部長、平成 20 年医療法人秋葉病院薬剤科長を経て、平成 26 年有限会社丈夫屋顧問、管理薬剤師として勤務。東京都病院薬剤師会副会長、日本薬剤師会代議員等を歴任。日本病院薬剤師会名誉会員。「DI クイズ 1 巻～ 20 巻」など著書多数。

1. ハイリスク薬

本講演では本題の「てんかん薬」に入る前にハイリスク薬の解説から始まった。薬局でのハイリスク薬管理では長期間服用することが多いので管理期間も長期に亘ることや安静時の管理が重要といった特徴がある。ハイリスク薬とは厚労省「医薬品の安全使用のための業務手順書」作成マニュアル（平成 19 年）に基づいた指定薬や 2010（平成 22）年調剤報酬改定で規定された 11 領域の医薬品である。特に、薬局でハイリスク薬管理が必要となるのはこの 11 領域の医薬品で特定薬剤管理指導加算（ハイリスク薬加算）も算出可能となった。薬局での最重要事項は副作用チェックであるので、ハイリスク薬の副作用の特徴を掴んでおくことが必要である。副作用管理ではハイリスク薬管理の第一歩として位置づけ（薬歴は必須アイテム）、副作用全ての管理は不可能なので薬ごとの代表的な副作用をチェックすることが大切である。

2. てんかんの発症機序

てんかんは神経ネットワークの興奮性（グルタミン酸作動性神経）と抑制性（γアミノ酪酸：GABA 作動性神経）のバランスが崩れ、過剰な興奮性が起きて発症する。また、これらのバランス異常にはイオンチャネルが関与している。一般に神経細胞の内側には K^+ が、外側には Na^+, Ca^{2+}, Cl^- が存在し、脱分極時にはイオンの流入・流出が起こる。てんかん発症時の大脳性興奮伝達には細胞外イオンのうち Na^+ と Ca^{2+} が興奮性シグナルとなり、Cl^- は抑制性シグナルとなる。また、GABA は陰イオンの取り込みを促進して興奮抑制に働く。

3. 抗てんかん薬

イオンの流入・流出を調節するのが抗てんかん薬であり、Na^+（興奮）チャネル阻害か Cl^-（興奮抑制）の取り込み促進をする GABA の活性化が主な標的となっている。従来から使われている薬剤にはヒダントイン系やバルビツール系など 7 系の薬剤があり、副作用はそれぞれであるが、発熱、意識障害、筋強剛、呼吸困難、下痢などが報告されている。また、GABA ニューロンのベンゾジアゼピン受容体に作動し、神経興奮抑制作用を増強するベンゾジアゼピン系薬としてクロバザムやクロナゼパム、ジアゼパムなどがある。副作用共通チェック項目として中枢神経系の眠気、ふらつき、呂律が回らない、呼吸抑制、肝障害症状、喘鳴、気管支分泌液増加など、また、用量不足による痙攣発作や離脱症状による痙攣発作、譫妄、振顫、不眠、不安、幻覚、妄想等にも注意する必要がある。その他の薬剤として Ca^{2+} 流入抑制作用を有するガバペンチン、Na^+, Ca^{2+} チャネル抑制のトピラマート、GABA 誘導体のピラセタムなどがある。これら薬剤の副作用の共通項目は上述のものに準ずるが、特異的な副作用もある。

4. てんかん発作の分類

てんかんは疾患として特発性局在関連（部分）、特発性全般てんかん、症候性局在関連てんかん、症候性全般てんかんに分類される。特発性局在関連てんかんは最も寛解率が良く、小児で見られる良性ローランドてんかん、良性後頭葉小児てんかんや幼児期から学童期前半に発症、思春期に 100% 寛解する年令依存性焦点性てんかんが含まれる。特発性全般てんかんには良性新生児家族性けいれん（思春期発症で寛解率 80%）などがある。一方、脳の障害が原因となる症候性には局在関連てんかんには側頭葉・前頭葉・頭頂葉・後頭葉てんかんや年令非依存性焦点性てんかんなどがある。症候性全般てんかんにはウエスト症候群、ミオクロニー発作てんかんなどがあり、乳幼児期発症予後が悪く、高次認知機能退行が起きやすく発達障害になり易く、寛解率が最も悪いという特徴がある。

5. 発作型による作用点を勘案した薬剤の選択

発作のタイプにより推奨される第一選択薬があり、全般発作には GABA 増強薬であるバルプロ酸（VPA）と Na+ チャネルブロッカーのカルバマゼピン（CBZ）が、発作重積には GABA 受容体活性化薬であるジアゼパムやミタゾラムが用いられる。新規薬とは 1990 年以降に欧米で発売された抗てんかん薬（anti epileptic drug: AED）を指し、従来の薬剤とは作用機序が異なり、相互作用や重篤な副作用が少ないといった特徴がある。本邦ではゾニサミド、ガバペンチン、トピラマートなど数種類が販売されている。

6. 処方例と薬歴の記入例

代表的な 4 つの処方例が示され、それぞれ解説と処方された薬の作用と注意点および服用方法などが詳しく説明された。さらに薬歴の記載時の注意点として、慢性疾患である場合は簡潔な記述が重要であり、SOAP 別に記入例が示された。

7. まとめ

（1）ハイリスク薬管理は勿論全般的に行わなくてはならないが、保険薬局サイドでは先ず副作用チェックから始める
（2）患者さんからの聞き取りに対して、先ずその薬剤の作用から考えられる副作用チェックから始める
（3）抗てんかん薬では中枢神経系の副作用をチェック、又、ハイリスクチェックシートを生かして他の副作用もチェックする
（4）他の医療機関からの処方薬に関して特に相互作用をチェックする

最後に、今回の講演では「てんかん薬」を中心に重要な事項を分かりやすく提示・説明され、盛り沢山で非常に感銘深い内容であった。紙面の関係上、かなり割愛した部分もあり、改めて講演会への参加の大切さを感じた。

逸見仁道（D-22B　昭和 49 年卒）

子どもと薬について

日　時：2018 年 11 月 18 日（日）13:00–14:30
場　所：町田市文化交流センター 5F
　　会議室 カトレア
講　師：国立成育医療研究センター薬剤部主任
　　徳永秀美先生

講師略歴　徳永　秀美（とくなが　ひでみ）
千葉大学薬学部卒業（平成 9 年卒）、平成 9 年卒国立病院機構東京医療センター薬剤科、平成 13 年国立病院機構相模原病院薬剤科、平成 18 年国立成育医療研究センター薬剤部、平成 23 年国立成育医療研究センター薬剤部主任 (現職)。
著書に「小児科領域の薬剤業務ハンドブック　じほう　2008」、「新しい小児の臨床検査基準値ポケットガイド　じほう　2009」、「小児薬物療法テキストブック　じほう　2017」、「こどもと薬の Q&A じほう　2018」などがあります。

今回は、演者として成育医療研究センターの徳永先生からセンターでの服薬指導経験と、ご自身の子育て経験をもとに、子どもと薬をテーマにお話しを伺いました。最初に、小児薬物療法の問題点として、添付文書に小児に「効能・効果」がないこと、小児では「使用経験がない」、「安全性は確立していない」こと、小児の年齢に対する「用法・用量」が不明確であることを指摘されました。さらに、小児の薬物療法においては、小児用剤形や適正な投与経路がないことに加え、添付文書では小児への与薬時に錠剤は粉砕すべきか？ 静脈注射は可能か？ 注射薬を内服してよいのか？ などの情報が不明瞭であると問題提起されました。

子どもの薬について薬剤師が注意すべきことは、薬の適応疾患と用法・用量、飲ませ方や使い方です。調剤の現場では、小児に対する用法・用量が添付文書に明記されている医薬品が少ないため、通常はガイドラインや薬用量ハンドブックなどを参考にして、用法・用量を確認することが多いそうです。すなわち、小児の薬物療法において添付文書の記載内容のみからその処方せんの内容が疑わしいかを判断することは、成人の薬物治療よりも難しいことを示されました。このような現状では、小児の症例報告の引用や個人的経験で処方している場合、効果や安全性が不確定な医薬品を調剤してしまうおそれがあり、患児の安全を守れないかもしれないことを指摘されました。

「子どもが薬を泣いて嫌がっているけれど、これは苦い薬ですか？ どうやって飲ませたらいいですか？」と保護者から聞かれることは多くあります。小児における粉薬は、水で溶いて飲めないときには市販の服薬ゼリーやオブラート、カプセル、ヨーグルト、練乳、ジャム、チョコクリーム、ピーナッツクリーム、プリン、アイスクリーム、海苔の佃煮、つぶしたバナナなど、少量に挟んで飲ませるとよいそうです。酸性の飲み物・食品（オレンジジュース、スポーツ飲料、ヨーグルト）は、一部の薬には不適であり、コーティングがとれて苦みが発生します。口の中を氷で冷やして、味覚を少し麻痺させてから服用させるという方法もあるそうです。また、虫歯にも注意が必要です。薬の味などを熟

知したうえで飲ませ方の説明を行うことで、保護者の不安を取り除くことかできるとのことでした。

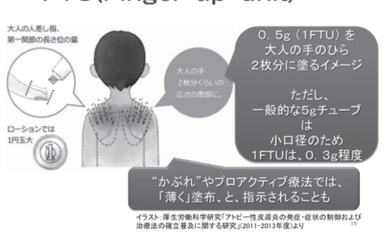
講演の中では、坐薬、点眼薬、吸入薬、ステロイド外用薬についても説明されました。例えば、ステロイド外用薬の副作用にも誤解があるそうです。初回面談の際には、必ず、「ステロイドって、どんなイメージですか？」と尋ねるようにしているそうですが、ほとんどの方が「強い薬のイメージ」と言うそうです。また、「怖い薬のイメージ」と言う方もいるそうです。そんな保護者の方には、ステロイドはもともと自分の体から出ているホルモンであること、古くからある薬で、今でも効果が認められていて、ステロイドに代わる薬がなかなかないこと、多くの人が使用し、多くの副作用が知られているから、予防方法も、対処方法もわかっていること、適切に使うことが大事であることをお伝えしているとのことでした。ステロイド外用薬は、基本的に、通常の使用量では全身性の副作用は出ず、副作用の多くは塗った局所に対するもので、皮膚がやや薄くなる、という副作用は可逆性ですと伝えるようにしているそうです。

子どもが拒薬して与薬を諦めたり、「今は症状がないから」、「副作用や成長への影響が心配」などの理由から、慢性疾患の治療薬でも与薬を中断する保護者がいるそうです。患児と保護者がその薬物療法を積極的に実行するにはアドヒアランスという考え方が大切ですが、そのアドヒアランスには患児と保護者の理解が大きく関わってきます。また、治療薬の必要性を、保護者と患児本人に教育し、保護者だけでなく患児にもわかりやすく説明して、患児自らが進んで薬物治療に取り組んでいけるようにすることが重要とのことでした。

徳永先生は最後に、「未来を築く子ども達のために、薬剤師の職能を活かしていきたい」と述べられました。

「小児薬物療法研究会へのお誘い」がありました。
小児薬物療法認定薬剤師として　一緒に活動しましょう一！！

講演で示された図の一部を紹介します。



田口恭治（D-22B　昭和 49 年卒）

山本恵子学長訪問記

前列真ん中が山本学長

同窓会会長　逸見（へんみ）　仁道（ひろみち）（D-22B　昭和49年卒）

遅くなってしまいましたが、山本恵子学長の新任のご挨拶に伺って参りました。同行したのは副会長（兼組織部長）寺門哲氏（D-29B）、広報部長神作ムツ子氏（D-16）、組織担当理事小川洋子氏（D-12B）の３名でした。山本学長は写真で見た通りの飾り気のない率直に意見を述べられる学究肌の人物とお見受けいたしました。自己紹介から始まり、同窓会と大学との関係について知っている範囲で歴史的な事柄を確認しあった後、あるべき姿についても言及しました。特に、薬剤師における生涯教育の柱と位置づけられている認定薬剤師認証機構のプロバイダーとしての平成塾発足の経緯とそれに伴う誤った理解の存在や将来の展開についての話題にも触れることができました。今後は協力できるところは協力してやっていきたい旨を伝え、また、学長からも好意的な意見を伺うことができました。短い時間でしたが将来に向けた有意義な意見交換ができたと思います。新しい関係の構築には少し時間がかかるかも知れませんが、着実に良い方向へ流れていると感じることができました。

昭和薬科大学図書館サービスのお知らせ

※昭和薬科大学図書館からの依頼で掲載しています。

図書館では、卒業生の方を対象に以下のサービスを提供しています。

【館内閲覧サービス】
・入館受付：平日９：00～16：30　土曜日９：00～11：30
・館内閲覧：平日９：00～20：00　土曜日９：00～17：00
・資料の複写：平日９：00～19：30　土曜日９：00～16：30
・貸　出：貸出冊数５冊、貸出期間１か月

【文献複写サービス】
・本学で所蔵している資料を複写して郵送致します。
・文献複写サービスの利用は、利用登録を完了させた方のみ可能です。最初に、文献複写利用申請書（卒業生）を記入の上、図書館まで下記のメールにお送りください。折り返し、利用のためのIDとパスワード、申し込み方法を連絡いたします。
・複写料金・送料は実費でいただきます。

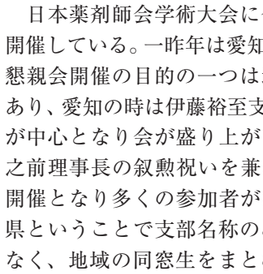
問い合わせ先：昭和薬科大学図書館
〒 194-8543　東京都町田市東玉川学園 3-3165
TEL：042-721-1522　FAX:042-721-1589
メールアドレス：tosho@ad.shoyaku.ac.jp
ホームページ：https://library.shoyaku.ac.jp/library/

昭薬同窓会懇親会 in 金沢 報告

ー第51回日本薬剤師会学術大会にあわせてー

日本薬剤師会学術大会に合わせて同窓会懇親会を開催している。一昨年は愛知、昨年は東京で開催した。懇親会開催の目的の一つは地域の支部会の活性化であり、愛知の時は伊藤裕至支部長（D-29B 昭和 56 年）が中心となり会が盛り上がりました。昨年は村瀬雅之前理事長の叙勲祝いを兼ねて、東京４支部の共同開催となり多くの参加者がありました。今回は石川県ということで支部名称のみで実質的な活動実績はなく、地域の同窓生をまとめる組織もないという状態で学術大会を迎えねばなりませんでした。そこで予め石川を中心に富山と福井を加えた北陸３県の同窓生に声掛けさせて頂きました。また、会場の手配など現地での采配は田口恭治副会長を通じて村松滋氏（D-43Y）にお願いし助けて頂きました。

同窓会懇親会 in 金沢はホテル金沢　16F トップラウンジ　ラズベリーで９月 23 日（日）に開催され、牧本民子氏（D-5A 昭和 32 卒）を始めとする地元や学術大会参加の方々の出席がありました。地元白山市から参加された青木保外志氏（D-20B 昭和 47 年卒）や青木氏と同期の福島の濱田博夫氏や渡辺陸子氏（D17B 昭和 44 年卒）、加藤明子氏（D-43Y）などの学会参加組との交歓が進みました。また、大会運営委員長である石川県薬剤師会の中森慶滋会長並びに日本薬剤師会の役員を務められている３名の同窓生、安部好弘氏（D-31A）・高松登氏（D-31A）・関根克敏氏（D-34B）もお忙しい中挨拶に見えられ、松本純衆議員議員からも祝電を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。



青木保外志氏（左）と会長（右）

参加者の集合写真

さらに、この会で北陸３県（石川・富山・福井）を１つの支部としてまとめ活動してくことが承認され、支部長を滝尻茂晴氏（D-37A）に、副支部長（兼事務局長）を村松　滋氏（D-43Y）にお引き受け頂きました。北陸支部が発足した瞬間でした。次回は下関での開催ですので、中国・九州・四国地方を中心とした活動の活性化を図っていきたいと考えています。

中森慶滋石川県薬剤師会会長（右）と会長（左）

逸見仁道（D-22B　昭和 49 年卒）

第79回九州山口薬学大会 報告

九州山口薬学大会は歴史のある大会で、今回で 79 回目を迎えました。今年は大分県薬剤師会の主催で別府国際コンベンションセンター通称 B-Con Plaza で 2018 年 11 月３日（土・祝）・４日（日）の２日間開催されました。寺門哲副会長と私で参加しました。ポスターや展示を中心に眺めましたが、発表内容の質は高く、流石に歴史と伝統を感じました。

学会主催の懇親会が学会初日の夕刻に開催されました。従来、懇親会では大学別のコーナーが設けられ、同窓生が１箇所に集まることができましたが、薬学部を持つ大学が増えたため大学別コーナーは昨年より中止になったとのことで、同窓生を探すことがそれほど容易ではありませんでした。それでも寺門哲副会長の尽力により長崎支部の会計担当をしておられた中村美喜子氏（D-30B）にお会いして支部の内情を伺うことができ、長崎支部の再開に向け大きく前進したと感じました。さらに、地元大分の渕祐一支部長（D-22A）ともお会いできました。渕氏とは大学を離れて以来の 40 数年振りの再会で、大分支部会開催のお願いができたことは大きな収穫でした。２年後の第 80 回大会は沖縄宜野湾市ということですので、多くの同窓生が活躍する沖縄でも支部会活動の活性化ができるのではないかと期待しています。

逸見仁道
（D-22B　昭和 49 年卒）

渕祐一大分支部長（左）と会長（右）

学究の広場

漢方薬は人類の叡智が産んだナノ免疫製剤？

小泉　桂一
（D-43S　平成7年卒）
富山大学 和漢医薬学総合研究所 漢方診断学分野 准教授

北京原人の「火の使用」から50万年、現生人類（ホモ・サピエンス）の祖先もほぼ同時期に「火の使用」があったと仮定すると、この史上最大の発明によって人類は植物を煮て摂取するようになった。さらに、植物の中から選抜された生薬を煮ることで中国医学や本邦の漢方薬を含む各国の伝統医薬品が派生し体系化されてきた。植物を煮ることによる殺菌などの効果は容易に想像できる。しかしながら、人類の叡智である「火の使用」で産み出される漢方薬の煎じ液には未だ解明されていない存在意義が隠されていると考えられた。なぜ人は植物を煮て飲むのか？この基本的な「問い」を再考し、そこから新たな学問の潮流を創成することは学術的な価値があると考えられた。

高速液体クロマトグラフィーなどの分析機器の発達は目覚ましく、漢方薬の煎じ液中に含まれる数多くの化合物成分が検出されている。現在の漢方研究での分析機器を用いた主役は薬効成分研究であることは間違いなく、例えば甘草中のグリチルリチンの同定はその代表例である。しかしながら、薬効成分研究の弊害として化合物一辺倒の研究に囚われ過ぎていると危惧された。薬効成分研究以外に価値を見出す研究を推進するためには学術的独自性を有した新たな漢方研究戦略が必須である。

筆者は昭和薬科大学薬剤学研究室（修士課程）で製剤学を学び、大阪大学博士課程、米国留学、富山大学 和漢医薬学総合研究所に赴任した二十数年間において、免疫学、腫瘍学、さらには漢方医薬学など、多岐にわたる研究を経験してきた。しかしながら、やはり筆者の研究原点は製剤学の原点である「目で見る」ことにある。そこで、漢方研究で初めての極めて独創的な試みとして、あの茶色く濁った漢方薬煎じ液を電子顕微鏡で観察した。その結果、そこには全く予想していなかった世界が広がっていたのである。各種漢方薬煎じ液中に熱に極めて安定なナノ粒子が多量に存在していることを発見し、これをナノソームと命名した（図1）。さらに、漢方薬の煎じ液を超遠心し、その上清をろ過することにより、ナノソームの分離・精製に成功している。また、ナノソームは植物を煮ることで産生される半人工的なナノ粒子であり、その主成分は多糖であった。免疫細胞に作用させたところ、ナノソームは自然免疫受容体であるToll-like receptorを介して生体感染防御タンパク質を産生することも確認している。さらに、ナノソームは生薬だけに存在するものではなく、お茶や味噌汁にまで存在することも確認している。即ち、薬食同源の考え方に通じる発見であると考えている。

なぜ人は植物を煮て飲むのか？　現在、筆者は次のような仮説を立てている。人類の叡智（火を使って植物を煮る）で作られた半人工ナノ粒子であるナノソームを日常的に食事から経口摂取することでヒトは感染防御力を高めているのではないだろうか。

このナノソームの発見は基礎免疫学や食品科学を含む多くの学術領域にインパクトを与えるものと考えられ、この仮説を証明すべく、今後も研究を続ける所存である。

（本成果はロート製薬株式会社との共同研究によるものである。）

参考論文

1. Discovery of a sugar-based nanoparticle universally existing in boiling herbal water extracts and their immunostimulant effect. Biochem Biophys Rep. 2018 Oct 11;16:62-68.
2. 特願2016-193235 粒子およびその製造方法

略歴

学歴：平成７年　昭和薬科大学 薬学部 生物薬学科 卒業
　　平成９年　昭和薬科大学 大学院 薬学研究科 修士課程 修了
　　平成12年　大阪大学　大学院薬学研究科　博士課程修了
　　平成12年　博士（薬学）取得（大阪大学）
職歴：平成12年　米国国立衛生研究所（NHLBI/NIH）博士研究員
　　平成13年　富山医科薬科大学 和漢薬研究所 助手
　　平成18年　大学統合により富山大学 和漢医薬学総合研究所 助手
　　平成19年　学校教育法改正により同研究所 助教へ移行
　　平成22年　富山大学 和漢医薬学総合研究所 准教授
　　現在に至る

漢方薬を目で見る! ナノソームの発見

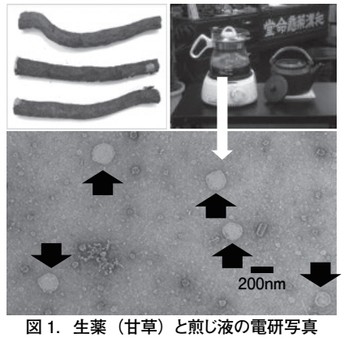


図1. 生薬（甘草）と煎じ液の電研写真

支部会便り

横浜南支部会

鈴木　秀樹（D-36B　昭和63年卒）
日時：平成30年10月14日（日）
場所：横浜イングリッシュガーデン&シーズン'ズカフェ

今年の横浜南支部会は、横浜イングリッシュガーデン（YEG）＆シーズン'ズカフェにて親睦会を行いました。当日は10名の参加でしたが、天候は暑くも寒くもなく散策には最適でした。

YEGは今年「世界バラ会連合優秀庭園賞」を受賞しており、秋バラを中心にコスモスやその他珍しい草花、ハロウィンの装飾等を楽しみました。またツアーガイドさんから、バラを植える際の品種の選び方、剪定や肥料のやり方の他、バラの香りの楽しみ方等いろいろなことを教えていただきました。

バラにはダマスク系やスパイス系、ティー系等の香りがあり、優雅な気分にしばし日常を忘れてしまいました。

シーズン'ズカフェでのバイキング（着席スタイル）は併設されている結婚式場のシェフが監修しているので、ヘルシーでバランス良く美味しいお料理でした。

以上のように近郊ではありましたが、とても楽しく親睦を深められたのではないかと思います。

また会費の一部は助成金から支出しましたので、ちょっとお得な価格設定になりました。

今後もお得で楽しく親睦を深められる会を企画して行きますので、どうぞお気軽にご参加頂ければと思います。

多摩南支部会

島袋　幸昭（D-20B　昭和47年卒）
日時：平成30年12月2日（日）
場所：町田市民ホール第一会議室

町田市民ホール第一会議室において、第23回多摩南支部地域学術研修会と総会を開催しました。研修会は演題1を今泉眞知子先生（D-20B）に“薬歴のポイント”と題して、調剤薬に関する服薬指導内容や患者さんからの相談などに関する対応、それぞれに関わる内容について薬歴として記載しなければならないポイントについて分かり易く講演していただきました。ついで、演題2を飯田好一先生（D-5A）に“薬局40年のうらばなし”と題して、開局当時、手探りの状態であったが漢方薬を取り扱う薬局が少なく、また、皮膚科の医院も1ケ所だけだったので主として漢方薬と皮膚病を専門に取り扱う薬局とした開局の動機や薬局40年の間に相談をうけた乳癌や胃癌などの各種の癌、ヘルニア、硬膜下血腫、処方箋の疑義照会などの事例について話をしていただきました。

研修会終了後、引き続き支部総会を開催し、村上純子（D-18B）会計幹事の平成28年から29年度の会計報告が承認をされた後、支部長に中島薫（D-22B）氏が再任されました。その後、飯田好一先生から藤本美智子（D-11B）氏が執筆した小説“色は匂へど散りぬるを”（販売：幻冬舎）が進呈されてきた旨、報告があり、司会の寺門哲（D-29B）氏から書店にお立寄りの際は是非ご覧になりますようにと紹介されました。

支部総会終了後、懇親会を行いました。懇親会には昭和薬科大学学長の山本恵子先生、同窓会からは逸見仁道代表理事をはじめ10名（内3名会員理事）が出席しました。

山本恵子学長から大学と同窓会の関係がギクシャクした時期もあったと聞いているが、大学と同窓会が良好な関係にあることは在校生の進路相談や就職後の指導に大変有益であると思っているので、過去の経緯にとらわれず関係改善を図っていきたいとのご挨拶があり、和やかに懇親を深める会となりました。

クラス会便り

D-12A

山本　剛（昭和39年卒）
日時：平成30年11月25日（日）
場所：昭和薬科大学「学生食堂」

我々は昭和39年「東京オリンピック」開催の年に卒業し、既に54年が経ちます。そして今年は殆どの人が「喜寿」云う節目を迎えます。そこで「喜寿の集い」という名目で11月25日（日）に会を催しま

した。会場は母校の学生食堂をお借りし､皆で「弁当」を食べながら学生時代にタイムスリップし、昔話に花を咲かせました。

勿論、食事の前に学内施設（教室や植物園）の見学や６年制薬学部の実情等のレクチャーも受け、一気に学生気分になりました。今までのクラス会はホテルの宴会場での食事会が多かったのですが、今回初めて母校の施設をお借りし、大学の雰囲気を味わい乍のお喋りはなかなか好評でした。因みに参加者は24名でした。また、特別ゲストとして上田元教授にも出席を戴きました。

絆会・丹葉会同期会 D-15

井上　敏子（昭和42年卒）
日時：平成30年10月20日（土）～ 10月21日（日）
場所：箱根湯本河鹿荘

ススキが綺麗な時期ですが紅葉には早い箱根で沖縄から北海道と全国から懐かしい仲間23人が集まりました。特に飛行機を利用した方は羽田空港から箱根湯本までの直行バスで２時間もかかり参加してくれ感激です。

年を重ねる毎に家族の介護や本人の健康・仕事などの諸事情で参加者は少なかったのですが温泉に入ることも忘れ遅くまで昔話に花を咲かせました。

宴会時には腰・ひざの痛い人もいるので椅子も用意し和気あいあいの２時間でした。

翌日も天気に恵まれ芦ノ湖では海賊船に乗りロープウェイで空中散歩、大涌谷では今まで見たことのない雪化粧の富士山を眺めながら、１個食べると７年長生き出来るという黒玉子を食べ皆で長生きを約束。桃源台からケーブルカーで強羅へ行き遅めの昼食、「強羅花壇」旧閑院宮別邸で懐石料理を堪能しました。登山電車で湯本に戻り、羽田空港直行のバスに乗るクラスメートを見送り、元気で再会を約束して解散しました。みなさんから元気をもらい健康でいなければ味わえないことを実感したクラス会でした。

D-26AB

田口　千恵（昭和53年卒）
日時：平成30年10月13日（土）～ 14日（日）
場所：日の出桟橋
ヴァンテアン号から東京下町巡り

私達昭和53年卒のAB合同同期会は、平成７年に東京で一回目を開催したのをきっかけに、２～３年ごとに横浜・浦安・札幌・鹿児島・沖縄・長野とそれぞれの開催地を地元にする同期生たちが幹事になり開催をして続けられ、今年は東京で10回目の開催を迎えました。久しぶりの東京での開催ということで、今回は日の出桟橋のレストラン船ヴァンテアン号を懇親会の会場に選びました。

今回も全国より同期生が59名集まりました。船で約２時間かけて東京湾を周遊しながら食事を楽しみ、その後はデッキに上がり東京の夜景を満喫し、一気に学生時代に戻り大はしゃぎでした。

14日はバスを利用しての柴又帝釈天→スカイツリー展望デッキ→浅草寺と下町を巡り、最後は隅田川を遊覧船『竜馬』にて下り、懐かしい友との凝縮した２日間をに名残惜しみながら、２年後のお互いの健康と再会を約束し、散会となりました。

第4回　D-29AB

五十畑　照美（昭和56年卒）
日時：平成30年11月3日（土）
場所：Baru&Bistro*MusiQ　"mood board"
（バール＆ビストロミュージック　"ムード　ボード"）

平成30年11月3日（土）丸の内ブリックスクエア3F「mood board」にて､AB合同同窓会を開催しました。ここのところ､毎年開催され､今回が４回目になります。

今年は、還暦を迎える年となりました。６月から会場探し・案内状作成、７月初めに案内状発送。９月に参加者人数確認、10月に会場最終打ち合わせ、その間に細々とした準備などで、あっという間に当日を迎えました。北は北海道、南は沖縄から、Aクラス36名、Bクラス42名、合計78名の参加がありました。多くの参加者で感激でした。同窓会のたびに、「誰だっけ？」の声が聞こえていたため、今年は学生時代の写真をA5サイズにしてゼッケンのようにし「胸側に名前・背中に写真」の名札を用意しました。結構、好評でした。薬剤師らしく､「お薬手帳」に赤いカバーを付け（還暦だから）１冊ずつプレゼントとして用意しました。

何かイベントを・・・と考えていたところ、Bクラスの溝口（旧姓：長岡）浩子さんが「フラダンスを踊りましょう。」と申し出てくれ、披露してくださいました。とても素晴らしかったです。

談話中、スクリーンには学生時代の写真が流れていて、懐かしさで話に花が咲いていました。「ジャンケンゲーム」で盛り上がったりしました。あっという間に、２時間30分が過ぎてしまいました。

最後に、次回の幹事を決め、「また、元気でお会いしましょう！！」と声を交わし、丸の内・銀座へとみんな散らばっていきました。連休の初日にも関わらず、皆さんの参加に感謝いたします。ありがとうございました。

D-36AB

鈴木　秀樹（昭和63年卒）
日時：平成30年11月25日（日）
場所：品川プリンスホテル内メインタワー４
中華レストラン孫悟空

当日は晴天に恵まれ、遠方からも多くのクラスメートが集まり､Aクラス49名､Bクラス31名の方々にご参加いただきました。

実は会場の貸切りが80名以上だったので、当日まで80名集まるかとても心配していました。

が‥参加者丁度80名！呼び掛けを行っていただいた方々、受付等の準備をお手伝いいただいた方々、今回は多くの方々のご協力で会が成り立ちました。本当にありがとうございました。

昨年は前段階としてプレ・クラス会が開催されましたが、今回 卒業以来初参加の方々もおられ、とても懐かしく良い会になったのではないかと思います。

これからも定期的にクラス会を開催して行きたいと思いますので、様々なご意見をお寄せいただくと助かります。

よろしくお願いいたします。

D-37B

原　和喜（平成元年卒）
日時：平成30年11月3日（土）
場所：大手町サンケイプラザ

11月3日、大手町サンケイプラザにてクラス会を開催しました。同窓会主催のクラス会を除けば、初めての開催、30年ぶりの再会になります。皆様の拡散のおかげで、北は北海道から、南は奄美大島に至る62名の出席者の下､無事に開催することができました。

過去に亡くなられた５名に黙祷をし、ご冥福をお祈りしました。

皆様の再会を祝して乾杯。一人１分間の自己紹介を行いました。学生時代からは想像もつかない人生を歩んでいる人もいて、歓声やどよめきが起こりました。

30年ぶりにお会いした皆様は、面影は学生時代のままなのですが、より逞しく、より美しくなっていましたね。仕事をバリバリこなしたり、子育てに奮闘してきた歳月が我々を成長させてくれたのでしょう。でも、声や話し方が当時のままだったりすると、ふと学生時代に戻る感覚に陥りました。思い出を語り尽くすには、とても足りない３時間でした。

最後に、クラス会を盛り上げてくださった皆様に、またご支援いただきました昭和薬科大学同窓会に深く感謝いたします。どうもありがとうございました。皆様、数年後にまた元気にお会いしましょう！

ＯＢ・ＯＧ会便り

昭薬山岳部（SPCAC）

田中 則夫（旧姓　青木 D-12A　昭和39年卒）
日時：平成30年10月28日（日）
場所：渋谷エクセルホテル東急

渋谷駅前は、秋の日差しが柔らかく降り注ぎ翌々日のハローウインを前に多くの若者達が集まるざわつく広場でした。

山岳部 OB・OG 会は、10 年前に新宿で開かれて以来のことです。出席者の最高年齢は、第 7 年度卒の伊藤、中畔両先輩が 82 歳。後輩の最年少は第 34 年度卒の田久保君が 40 代。その年代差は実に 27 年間でした。これが伝統のある山岳部ならではの OB・OG 会の集いです。

出席者 21 人を卒業年度の旧い順から紹介します。伊藤 亮、中畔 秀康、伊藤 毅、林聖宝、若林 潤、野村 文男、中村 基通、田中 則夫、石川 任孝、岸林 博康、黒田 麻遊美、川合 緑、佐野 起子、藤田 悟、相田 邦彦、外池 恭子、土屋 雅信、後藤 知良、福田 昌暢、森田 直子、田久保 繁（敬称略）。

会が始まる前におそらく先輩達も後輩達もお互いの名前や気質が分からないまま期待に胸を膨らませて会場入りしたことでしょう。会がもつ独特な雰囲気の出逢いです。

先輩達は、若くて頼もしい立派な社会人となった後輩達に眼を細め、後輩達は先輩を敬いながら嬉しそうに約 30 分間は挨拶や雑談で過ごしました。筆者が 21 人の自己紹介を軽妙にまとめて進行しお互いが認識を深め合いました。同じ釜の飯を喰らってきた山の仲間達は、厳しくも楽しかった山山が舞台になると当時を想出に花が咲きたちまち感情を共有できたのです。先輩達の精神論やお説教型など様々なスピーチをよそに一部の後輩達から山岳部に入部した動機は、上級生から“巧妙に騙されたとか、おだてられた”など騙しの手口であったというのです。偉そうな先輩達もいつの時代も変わらぬものだと内心苦笑したものです。山の唄に、次のようなくだりがあります。“♪いいぞいいぞとおだてられ死にものぐるいで来てみたが、朝から晩まで飯炊きで、景色なんぞは夢のうち♪”

でも、それが山岳部へ入部したお陰でこのような楽しい新旧のめぐり逢いができたのです。

最後に伊藤会長は、余命の危機を感じてか（笑い）“5 年後は長すぎる 3 年後に再会しよう！”との合言葉で散会しました。

第６回昭和薬科大学合唱団同窓会

桜井　晃（D-28Ｂ　昭和55年卒）
日時：平成30年11月３日（土）
場所：アルカディア市ヶ谷

秋も深まり始めた 11 月 3 日（文化の日）、アルカディア市ヶ谷（私学会館）にて、第 6 回昭和薬科大学合唱団同窓会を開催しました。当日は、北は北海道、南は沖縄まで、全国各地より幅広い年代の方々、総勢 40 名が参集しました。卒業以降初めて参加された方も多く、懐かしい顔ぶれに開宴前からあちらこちらで話の輪が広がっていました。

開会挨拶後、梅村幸夫さんの乾杯の音頭で開宴し、食事をしながら歓談、近況報告などの後、恒例の合唱タイム。

今年は、吉本文男さんの指揮、野田頼子さんのピアノ伴奏で、昭和薬科大学校歌はじめ全 8 曲を合唱しました。社会人になってからも合唱を続けておられる方も一部におられますが、大半の方にとっては久しぶりの合唱にもかかわらず、ブランクを感じさせない素晴らしいハーモニーに、吉本さんからお褒めの言葉を頂きました。

記念撮影をし、宴はお開きとなりました。その後も名残りは尽きず、階下のラウンジ・スリーゼに場所を移し二次会となり、日も傾きかけた頃、散会しました。

2 年後の 2020 年（東京オリンピック開催の年）は大久保英久さん、平瀬葉子さんはじめ昭和 53 年卒の方々に幹事の労をお取りいただけることとなり、鹿児島（？）にて行われる予定です。東京を離れ各地で同窓会が行われると観光の他、地元の美味しいものを頂けるので今からとても楽しみです。次回も多くの方々と元気に再会出来ることを願ってやみません。

最後になりましたが、写真撮影をして頂いた中野裕次さん、幹事をして頂いた、昭和 55 年卒の関谷淑子さん、佐藤久子さん、神山都紀子さん、昭和 56 年卒の伊藤裕至さんに深謝いたします。

昭薬同窓生リレー寄稿

第 3 回

社会人20年目を前に想うこと

笠倉　哲也（D-46Y　平成10年卒）
ヤンセンファーマ株式会社
研究開発本部　クリニカル・オペレーション統括部
トライアル推進部　免疫疾患領域

私は、1998 年に昭和薬科大学薬学部を卒業し、2000 年に昭和薬科大学大学院修士課程を修了しました。私が就職活動を検討／実施した 2 時代は、企業だけでなく病院への就職希望者も多かったです。

さて、縁ありまして、2000 年にジョンソン＆ジョンソンの医薬品部門の日本法人であるヤンセンファーマ株式会社に入社し（入社当時はヤンセン協和株式会社）、臨床開発部門に配属となりました。あれから、約 18 年が経過していますが、治験が適切に行われているかモニタリングする CRA（Clinical Research Associate）、いわゆる業界で言うモニターからキャリアをスタートし、治験実施責任者を含むリーダー職を経て、現在はその仲間であるリーダーを育成しながら担当領域の Operational management を共に実施しております。GCP（Good Clinical Practice）や社内 SOP（Standard Operating Procedures）を遵守しつつ、自分達の定めた計画に従い、臨床試験を遂行させるのが主な業務です。苦労と表裏一体ですが、自分が担当した製品が医薬品になり、少しでも多くの患者様の治療に貢献できることが何よりの喜びです。

仲間との楽しいひととき（中央手前が笠原氏）

入社当時は臨床開発のイロハも分からずこの世界に飛び込んだ訳ですが、新薬開発は最良の科学を革新的な薬に変える最初の一歩であることを学びました。ただし、変化する規制や規程の理解、ヤンセン社内ルールやシステム等、いくつになっても学ぶ必要性を感じております。一方で、外部環境のみだけではなく内部環境の変化も大きい時代であり、会社は 100% 外資系の製薬会社となり、現在ではダイバーシティとインクルージョンを経営の重要課題として位置付ける会社になりました。

変化の多いこの時代、正解のない時代、不確実性の時代と言われています。とは言え、一緒に過ごした仲間やその時の経験をいつまでも大切にして欲しいです。夢中になったこと、考えて実施したことで無駄なことはないのかな、と思いますし、1 人でできることも決して多くはありません。これら変わらないものを礎に、しなやかに成長していきましょう！

次回の寄稿者は笠倉氏からの推薦で安倍悠史氏（D-50Y　平成 14 年卒、M33 平成 16 年修）です。

第 6 回 江口記念がん優秀活動賞 受賞報告

公益財団法人がん研究会有明病院薬剤部 川上和宜先生（D-46S 平成 10 年卒）
受賞題目　「薬剤師外来における経口抗がん薬のアドヒアランス評価構築とアドヒアランス向上のための知識、技能の情報提供活動」

この度、公益財団法人がん研究会有明病院薬剤部の川上和宜先生（D-46S 平成 10 年卒）が、日本病院薬剤師会の「江口記念がん活動賞」を受賞されました。本賞に名を冠している江口久恵先生は昭和薬科大学の卒業生（D-25A 昭和 52 年卒）であり、日本病院薬剤師会理事、北海道がんセンター薬剤科長、四国がんセンター薬剤科長等を歴任されました。また、がん専門薬剤師制度の立ち上げ、発展にも尽力されましたが、2011 年に 56 歳の若さでお亡くなりになられました。「江口記念がん活動賞」は、江口久恵先生のご遺族が日本病院薬剤師会に贈られた寄付金を基に創設されたものであり、がん領域に係る薬剤師としての活動の中から、その貢献度が最も評価された 1 個人または 1 団体に授与されます。昭薬大卒業生の業績により創設された本賞を、同じく卒業生である川上先生が受賞された事は、大変喜ばしい限りです。

学術担当　田口恭治（D-22B 昭和 49 年卒）

ー第８回一般社団法人昭薬同窓会社員総会のお知らせー

第８回一般社団法人昭薬同窓会　社員総会を下記のとおり開催いたします
日　時：2019 年 6 月 16 日（日）13：00 ～ 16：00　　場　所：昭薬会館 5 階会議室
議　題：１．2018 年度会務事業報告　　２．2018 年度一般会計決算報告
　　３．2018 年度監事報告　　４．2019 年度会務事業計画案
　　５．2019 年度一般会計予算案　　６．理事及び監事選考委員会報告
社員総会終了後、社員及び会員の皆さまと意見交換会をいたします。皆さまご参加ください。

理事及び監事の選出並びに立候補の届出等の受付に関する告示

告示

2019 年 3 月 20 日

会員各位

一般社団法人昭薬同窓会
代表理事（会長）
逸見　仁道

理事及び監事の選出並びに立候補の届出等の受付に関する告示

「一般社団法人昭薬同窓会定款」及び「一般社団法人昭薬同窓会理事及び監事選出要綱」に則り、下記のとおり、2019 年 7 月 1 日から 2021 年 6 月 30 日までを任期とする理事 23 名及び監事 2 名の選出の告示をいたします。

記

1　理事及び監事の選出は、2019 年 6 月 16 日（日）に開催される第 8 回社員総会において理事・監事選考委員会における選考結果を報告し、承認を得ます。
2　理事及び監事の被選出資格は 2019 年 3 月 1 日までに 2018 年度の会費を納入している会員とする。
3　立候補しようとする会員は、立候補届出書（様式第 1 号）及び趣意書（様式第 2 号）を添えて届け出てください。
4　立候補の届け出に必用な書類の様式は定まっております。届出関係書類一式及び関係諸規定は、事務局にご請求ください。
5　立候補の届け出の受付期間は、2019 年 3 月 21 日から 4 月 30 日までとし、4 月 30 日消印は有効とします。
　一般社団法人昭薬同窓会選考委員会宛の書留郵便で受け付けます。
6　その他、立候補に関するお問い合わせは、事務局にお願いいたします。

宛先　一般社団法人昭薬同窓会選考委員会
　〒 194 － 0042　町田市東玉川学園 3 － 3138　昭薬会館 5 階　一般社団法人昭薬同窓会　事務局　042 － 722 － 5750
＊関係書類はホームページよりダウンロードできます。

昭薬ミニミニクイズQ

小児に処方されたビタミン剤

保育園児の美民（びたみ）ちゃん（3才）母子が小児科から帰る途中に旦那さんとツマ子さんと出会いました。母親は不眠傾向にある美民ちゃんに出ていた薬が思いがけなかったと言います。その事で母親と夫婦が話をしています。

お母さん：うちの美民は寝つきが悪く、夜にぐっすり眠れないのです。
旦那さん：美民ちゃんくらいの子供でもそんな事があるのかなあ？
お母さん：私達夫婦の勤めの関係でどうしても夜遅くなりがちな生活をしているせいかもしれません。
ツマ子さん：今日は小児科の先生に相談に行って、子供の不眠症にいいお薬を出して貰おうと思ったらビタミン剤だったのですね。
旦那さん：確かに大人に出されるような不眠症の薬を飲ませるのも怖いよね。
お母さん：でも、ビタミン剤で寝つきがよくなるのかとちょっと不思議なきもします。
ツマ子さん：これで眠れるようになるのかしら？何かに関係して出されているのでしょう？

答えはホームページでCHECK!!　http://www.shoyaku.net

今回の処方
ピドキサール錠10ｍｇ　　１日１回夕食後服用　30日分

Q：ピドキサールが不眠の場合に関連がある薬剤は以下のどれですか？
①ルネスタ　②カロナール　③ロゼレム　④ペリアクチン

部局紹介

・学術部　　田口恭治　逸見仁道　田端 康　松浦功文　神戸敏江

地域医療を担う薬剤師を対象として、学術ならびに行政や社会の医療ニーズにあわせた情報を発信することを基本方針としています。平成塾運営委員会を中心に平成塾通信講座、スクーリングを年２回と薬剤師業務支援講座を年５回開催し、薬剤師生涯研修プロバイダー（G12）として活動しています。今後は各支部会と連携した支部会主催の研修会の開催支援にも力を入れます。

広告

2019 年　第 42 回　未就業薬剤師研修会のお知らせ

蒲田薬剤師会
共催：大田区

「未就業薬剤師研修会」は保険調剤に携わる薬剤師として必要最低限の心構えと知識を養成するために行っているものです。中でも重要視しているのは「調剤業務を通じて地域医療の一端を担う薬剤師」としての心構えです。
医療機関の前に薬局がある方が便利だという考え方もありますが、患者の家の近くにどこの医療機関の処方箋でも調剤が出来、適正な服薬指導が出来る薬局があれば、患者にとって最も便利であり、そうした薬局が患者の周りに多ければ多いほど「かかりつけ薬局」を選定する機会に恵まれ、「医薬分業」のメリットを享受できるはずです。
目まぐるしく変わる診療報酬と調剤報酬の改正、薬価の改定など保険医療の変化は現在保険調剤業務に携わっている薬剤師も戸惑うほどです。
変化に取り残されないよう常に知識を新たにし、何時でも地域医療の第一線で活躍できるよう、未就業の方や、保険薬局勤務を希望している方を対象に、今年も研修会を企画しました。多数の薬剤師の方の参加をお待ちしております。

★本研修会は、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度対象研修会です。

１．日　時　9月、10月の土曜日
各回とも午後3時から5時
（計6回。スケジュールの詳細につきましては申し込みのあった方に郵送いたします。
講義の他に薬局実習あり。）

２．参加費　テキスト代等の一部として7,000円

３．会　場　蒲田薬業会館4F会議室　東京都大田区蒲田4-38-5　TEL：03-3732-1291

４．申し込み・問い合わせ先
〒144-0052　大田区蒲田4-38-5蒲田薬業会館
蒲田薬剤師会　未就業薬剤師研修委員会　TEL：03-3732-1291　FAX：03-3732-3045

※宛先を書き92円切手を貼った返信用封筒を同封して資料を請求し、7月31日までにお申し込みください。
尚、希望者多数の際は抽選とさせていただき、8月中頃までに参加していただけるか否かをご連絡いたします。

「自然災害の被害を受けられた方・ご存知の方」

自然災害の被害を受けられた方・ご存知の方へ情報提供のお願い

昭薬同窓会には震災や豪雨による洪水・台風などの自然災害による被害を受けられた同窓生に対する見舞金制度があります。しかしながら、最近頻発する自然災害の被災者の情報を入手することが難しい状況になっています。そこで、震災や豪雨など**自然災害を受けられた同窓生の方**ならびに**被災された同窓生をご存知の方**は、事務局へ情報の提供（電話・fax・e-mail）をお願いします。
なお、見舞金制度の原資として会費から独立した災害基金があります。災害基金へのご寄付も常時受け付けております。互助の精神でよろしくお願いします。

災害寄附口座：郵便振替
口座名義：一般社団法人昭薬同窓会
口座番号：00100-9-485265
＊振込用紙は同封の振込用紙か郵便局備え付けの振込用紙をご利用下さい。
郵便局備え付けの振込用紙の場合はご依頼人名欄に必ず「災害寄付」と書き、「卒業年とお名前」を入れて下さい。（例：昭和 58 年卒の場合、S58　昭薬花子）

会員訃報

下記の方のご逝去を悼み、慎んでご冥福をお祈り申し上げます（敬称略）
（　）内は旧姓

S17	牧絵テル子（八木）	2018.8.14
D2	田中　龍夫	2018.11.11
D7B	田中　政江（小泉）	2018.7.3
D8B	箭野　崇子	2018.3.27
D11B	新海　圭子（坂本）	2018.11.2
D12B	斎藤　雄一（小滝）	2019.1.31
D15A	得居智津子（今井）	2018
D15A	赤上多江子（西川）	2018
D22A	検見崎　隆	2017.8
D22B	桑江由利子（伊野波）	2016.12.5
D37B	安藤　昌利	2002.8.7
D37B	雨宮由美子（長澤）	

いつもご協力ありがとうございます。
引き続き以下の口座でも〔一般寄附〕および〔災害寄附〕を受付けています。

◯一般寄附口座：みずほ銀行　町田支店（支店番号 116）　口座番号（普通）1782080
◯災害寄附口座：りそな銀行　成瀬支店（支店番号 647）　口座番号（普通）1365833

いずれも口座名義は　一般社団法人　昭薬同窓会

第８回一般社団法人昭薬同窓会社員総会

日　時：2019年6月16日（日）13：00～16：00
場　所：昭薬会館5階会議室
議　題：１．2018年度会務事業報告
　　２．2018年度一般会計決算報告
　　３．2018年度監事報告
　　４．2019年度会務事業計画案
　　５．2019年度一般会計予算案
　　６．理事及び監事選考委員会報告
＊2019年度は理事及び監事の任期が終了します。
　詳細は14頁をご覧ください。
＊お越しの際は、駐車場がありませんので、公共交通機関にてご参加をお願いいたします。

「部活クラブ」代表代議員の募集

昨年「部活クラブ」代表が代議員として同窓会運営に加わることが承認されました。現在活動のないクラブ等の参加も認められておりますので、積極的にご参加ください。詳細は同窓会HPまたは事務局までお問い合わせください。

平成塾薬剤師業務支援講座

「腎機能低下時に注意すべき薬剤」
日本赤十字社医療センター 副薬剤部長　石田 耕太先生
日　時：2019年5月19日(日)13：00～14：30
場　所：町田市文化交流センター 5F会議室 サルビア

「地域でかかりつけ薬剤師・薬局としての健康サポート機能を発揮するために」
ヒロ薬局　塚本 久美先生
日　時：2019年7月21日(日)13：00～14：30
場　所：町田市文化交流センター 5F会議室 サルビア

第52回日本薬剤師会学術大会

会　期：2019年10月13日(日)14日（月、祝）
開催地：山口県下関市

昭薬同窓会60周年記念事業への参加呼びかけ

皆さま、同窓会は来年創立60周年を迎えます。それに合わせて記念事業を行いたいと考えております。記念事業の内容について何でも結構ですのでご意見やご要望等をメールまたは文章にて事務局までお寄せください。

同窓会運営協力金のお願い

昨年度創設されました同窓会運営協力金は皆様のご厚情により多くの申し込みがあり心より感謝いたしております。今年度も引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

会報116号は以下の方々を中心に発送しております

会報116号は、・2016、2017、2018年度会費納入者
　　・住所が新たに判明した方
以上の方々を中心に送っています。同窓生で、今号を受けとっていないというお知り合いがいらっしゃったら、会費の納入をおすすめください。納入確認後、会報をお送りいたします。

同窓会費納入方法

郵便振替（郵便振込用紙）

口座名義：一般社団法人昭薬同窓会
口座番号：00100-9-485265
同窓会費：3000 円

注：同封の振込用紙または郵便局備え付けの振込用紙をご利用ください

ゆうちょダイレクト

口座名義：一般社団法人昭薬同窓会
口座番号：10100-89669221
同窓会費：3000 円

＊ゆうちょダイレクトでの送金が出来るようになりましたのでご利用下さい。なお、ご依頼人名欄にはお名前の前に卒業年を入れて下さい。
例：昭和58年卒の場合、S58　昭薬花子

口座引き落としもご利用下さい

ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方

お手持ちのゆうちょ銀行の口座から毎年6月30日に引落すものです。用紙は同窓会事務局にありますので、ご連絡いただければお送りします。

市中銀行・信用金庫の口座をお持ちの方

お手持ちの銀行及び信用金庫の口座から毎年6月3日または7月3日に引落すもので、この場合は、同窓会事務所にある所定の申込用紙に記入してください。
事務局にご連絡いただければお送りします。

広告募集

昭薬同窓会報に広告を掲載したい団体、企業等を募集します。

広告料	1 ページ	¥60,000
	1/2 ページ	¥30,000
	（裏表紙全ページ）	¥100,000

使用する紙面の広さについてはご相談に応じます。
お申し込み、お問い合わせは電話またはメールで事務局までお願いいたします。

編集後記

「ノブレス・オブリージュ」という言葉がある。
フランス語で「高貴なる者の義務」と訳されている。
社会的に高い地位の人間は社会の模範とならねばならない、という意味で使われる。
　世の中には所得や権力を多く持った人たちがいるのは事実だがそういう人たちは、今はそうではない人たち、貧困や病気、学歴格差、理不尽な天災人災にあった人々の深い悲しみ苦しみに思いをいたし共感し、それぞれの方法で自分の持つ豊かさを分かちあうという意味にも通じる。
　私達は幸いにも薬学を学ぶ機会を与えられた。それを世の中にどう還元していくかが卒業生に課せられた義務と思えます。
　116号誌では各職場の仕事を通じて世の中に還元していく方策を模索しておられたり、あるいは支部会、クラス会を開くために、自分の時間を縁の下の力持ちとして提供し活動して下さっている多くの方々のご努力を知り「ノブレス・オブリージュ」の意味に通じる思いとして敬意を表しております。
＊「昭薬同窓会会報」誌と共にホームページで「昭薬同窓会」もご覧下さい。　（かんさく記）

発行者：一般社団法人 昭薬同窓会 代表理事(会長) 逸見　仁道
事務局：〒194－0042　東京都町田市東玉川学園３丁目3138番地 昭薬会館５階内
　　電話 042-722-5750　FAX 042-721-1295
　　E メール：alinfo@shoyaku.net　ホームページ：http://shoyaku.net
印刷所：株式会社 相模プリント

■会報掲載の原稿・写真等の返却について
会報に掲載した原稿、写真、イラスト等については返却いたしませんのでご了承下さい。ただし返却が必要な場合は遠慮なくお申し出下さい。

同窓会事務局へのお問合せは月曜日～金曜日の12時から15時にお願いいたします。